

昔々、ある森の中に、カメとウサギが住んでいました。ウサギは速く走ることで有名で、みんなからその速さを自慢していました。一方、カメはゆっくり歩くことで知られていましたが、特に速さには自信がありませんでした。

ある日、ウサギはカメに向かって言いました。「カメさん、どうしてそんなに遅いんだい？ 僕のように速く走れたら、もっと楽しいだろうに。」

カメは黙ってウサギを見ていましたが、心の中で考えました。「ウサギは速いけれど、僕は何か他のことで勝てるかもしれない。」

そこで、カメはウサギに提案しました。「じゃあ、競争してみないか？」

ウサギはその提案に大笑いしました。「競争？ 僕が勝つのは簡単すぎるよ！ でも、君が望むなら、やってみてもいいよ。」

二匹は競争をすることに決め、スタート地点を決めました。ウサギはすぐに走り出しましたが、カメはゆっくり歩き始めました。ウサギはその速さに満足して、途中で何度も振り返りながら走りました。

しばらくして、ウサギはカメが全然近づいてこないのを見て、思いました。「どうせカメは僕に追いつけないだろう。ちょっと休憩しよう。」

ウサギは木陰に座り込み、しばらく寝てしまいました。

その間、カメは遅いながらも一生懸命歩き続けました。休憩を取らず、止まらずに前進し続けました。時間が経つにつれて、カメは少しずつゴールに近づいていきました。

やがて、ウサギが目を開くと、カメがゴールのすぐ近くにいるのを見つけました。慌てて走り出したウサギでしたが、カメはすでにゴールラインを越えていたのです。